

てんけんくんが行く!!

地下鉄でGO!

～帝都高速度交通営団 編～



業界のマスコットキャラクター「てんけんくん」がさまざまな場所へ突撃取材を行う「てんけんくんが行く」シリーズの第2弾。「帝都高速度交通営団(営団地下鉄)」の車両基地にてんけんくんが突撃!大変珍しい地下鉄の「点検整備」に大興奮!

☆

何編成も地下鉄が並ぶ屋外の留置線。地下を走行しているはずの「地下鉄」が日差しの下で休んでいる…そこへ「点検整備」の重要性を求めたどり着いたてんけんくん…さっそく帝都高速度交通営団の野澤さんにお話を伺った。

☆

てんけんくん：たくさんの車両が点検を待っていますね。

野澤さん：ここ車両基地は、決められた期間、または走行した距離によって車両をオーバーホールする「人間ドック」のようなところ。基地内に設けた車両工場と検車区で、電車の点検・整備を行っています。電車の主要部分を外部から目視で点検する「列車検査」から、電車の主要な部分を取り外して、点検、測定、部品の取り替えなど、全般にわたって行う「全般検査」まで、走行時間や走行距離に応じたさまざまな点検や整備を行っているんです。

てんけんくん：電車はどれくらいの寿命があるのです

ようか?

野澤さん：営団の車両はアルミ合金製の車体が多く、鉄のように錆びたりしませんので、20年位経過した車両からリニューアル工事を実施して性能回復をした後、引き続き使用しています。耐久年数で言えば、30年以上はもちますね。

てんけんくん：自動車の使用年数と比べても、30年というのは気が遠くなる長さですね!でも、それだけ長く使うということは、よっぽど念入りに点検整備を行うんですか?

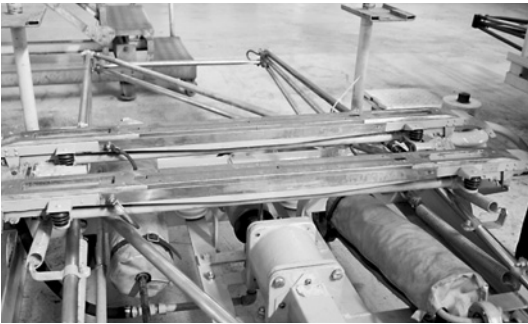
野澤さん：そうです。お客様の安全のため、徹底的に点検整備を行います。「重要部検査」「全般検査」「列車検査」「月検査」の4種類を定期的に行っています。「重要部検査」は4年又は走行距離が60万キロメートルごとに、電車の主要部分について分解し、その状態及び機能について検査を行います。「全般検査」は電車の最高の検査であって、電車の主要部分を取り外して、全般にわたって行う検査です。その他に「列車検査」を少なくとも6日に1回、電車の主要部分について外部から検査を行います。さらに「月検査」、3ヵ月ごとに、車両の主要部分の状態及び機能について行う検査です。これだけの点検整備を行うので安心して運行できるのです。さらに、パンタグラフ(外部から電力を取り入れる装置)は毎



「台車抜き」：無線操作による大型クレーン2台で車体を持ち上げて、車体と台車を分離します。



台車が取り外された車体は、専用の台の上で点検整備!!



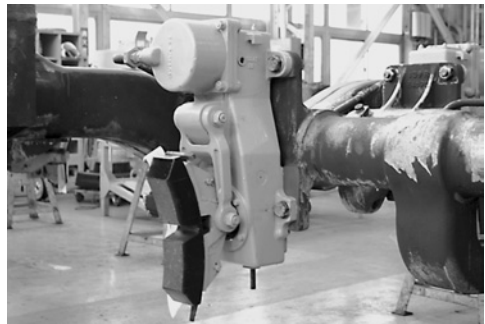
毎日チェックするというパンタグラフ。高架線に常にこすりつけられる部位だけにチェックも厳しい!!



「台車の分解」:台車から主電動機(モータ)を取外し、台車を台車洗浄装置で洗い、さらに車輪と台車枠とに分解し、各部分を検査!!



「床下機器の取外し」:各種機器を収納箱ごと取外し、分解。定期交換部品の取替え、不具合箇所をメンテナンスし機能回復!!



電車のブレーキ。車輪一つにつき一個付いている。素材は自動車のブレーキと変わらないう。という。

日運行終了後、車庫に入る際に監視カメラで摩耗を確認し、交換時期をチェックしています。

てんけんくん:ここまで点検整備をすれば、故障は絶対にないですよ!?

野澤さん:ところが、必ずしも「ない」とは言えないんです。法定点検が30年前と比べ2倍以上に延びたのも影響しているのでしょうか…

てんけんくん:点検整備の期間が延びたんですか?

野澤さん:電車の製造技術が向上するにつれ、法定点検期間が延びているのは事実です。私が入社した30年前は1年半ごとに法定点検がありました。それが、2年になり、3年になり、そしてついに現在は4年になっています。期間が延びたからこそ、自

主的に点検整備を行う心構えが必要だと感じます。昨年ISO9001を取得し、お客さまに安心して乗車していただくため、日々努力しています。

てんけんくん:なるほど!さすが整備のプロですね!安心と安全を届ける「点検整備」、これからも頑張ってくださいね!

☆

「てんけんくん」の好奇心は止まらない。明日はどこに突撃するのか……(続く)

てんけんくん、地下鉄運転席へ!
(※実際に運転はしていません)◎

野澤さんとがっちり握手!



取材協力:帝都高速度交通営団



東京メトロ

帝都高速度交通営団は平成16年4月から東京地下鉄株式会社となります。愛称は「東京を走る地下鉄(メトロ)」であることを端的に表現した「東京メトロ」です。(新しいシンボルマーク)